

施策体系の総括実績・評価表（令和4年度実績）サマリー

方向性	総括	取組状況
方向性1：持続的発展に向けた経営支援	<p>各施策が概ね取り組まれている。以下について更なる推進、改善等課題がある。</p> <p>1-① 利子補給等の融資制度の充実 1-③、④、2-④ 相談窓口、各機関の支援事業の認知度向上、活用推進 3-② 商工会の加入促進 3-③ 企業市民制度の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の融資制度では、申請に必要な書類が煩雑である、申請から斡旋までに時間がかかる等の課題があり、「事業者及び金融機関にとって活用しやすい制度の構築」が進んでいない ・ 「関係機関との連携による情報提供」は「認定支援機関連携会議」や「起業支援ネットワーク会議」により実現している ・ 企業市民の認定が事業者の地域貢献を促進することに十分に寄与していると言えない
方向性2：次代を担う産業・事業の創出	<p>各施策が概ね取り組まれている。以下について更なる推進、改善等課題がある。</p> <p>1、2 産業振興（創業、新産業創出）における理化学研究所との連携 4-② 創業または市内への移転に関わる資金融資</p> <p>なお、北インター東部地区の都市計画進捗に左右される2-③新たな産業拠点への立地促進は、令和4年度時点では取り組めない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ WRIPのPR、WRIP入居企業への支援は一定の成果が見られる ・ 「市が指定する新たな産業拠点」が明確になっておらず、研究開発型企業や新産業の誘致ができていない ・ WRIPを卒業した企業が市内に定着するための施策が整っていない ・ 市内で創業する事業者や市外から事業所を移転する事業者に係る資金融資制度がない
方向性3：都市農業の推進	<p>市内の市街化区域が大半を占め、農地・農業の維持が困難な状況にある中、「1 担い手の育成と確保」は取り組みを行っているものの、1-④新規就農はハードルが高く、1-⑤担い手確保の取り組みができていない。</p> <p>3-①わこ産わこ消の推進、4-①体験型農業の拡充、4-②市民農園の促進、4-③食育教育の推進など、市民と農業を繋ぐ取り組みは充実している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな農業の担い手の確保、農地・農業の維持が困難な状況である ・ 学校給食の食材に和光市産野菜を活用し、わこ産わこ消の取り組みを実施している ・ 6次産業化としての和光ブランドの開発を実施できていない ・ 農商工連携、農業と福祉の連携についての取り組みを実施できていない ・ 市民農園の利用促進、都市住民と農業の共生は一定の成果がみられる
方向性4：和光ブランドの発展的展開	<p>和光ブランドの取り組みは11年が経過し、着実に取り組まれている。</p> <p>2-②市民及び市外への情報発信に取り組んでいるが、2-①広報宣伝活動の体系的整理、3-①新規認定商品の開発、などが取り組めておらず、新たなブランド（戦略）の展開に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和光ブランドの登録は商品のみ留まっており、サービスや技術の登録まで展開していない ・ イベントや小学校特別授業を通じて、市内に対する和光ブランドの知名度を向上している ・ 和光ブランド新規認定商品の開発は進んでいない ・ イメージキャラクターは市の発行物等に多く使われており、知名度が高い。さらに愛されるイメージキャラクターとなるためにはイベント出演やSNS等を活用した発信が必要
方向性5：いきいきと働く環境づくり	<p>1-①、②関係機関との連携による求人・求職情報の提供、就職の機会づくりは取り組まれている。施策の推進として、就職を希望する住民へのふるさとハローワークの周知、利用促進や求職・求人のマッチングのためのニーズ把握などの課題がある。</p> <p>1-③、2における事業者側の働きやすい職場環境づくりに係る取組は行われているが、事業者向けセミナー等への参加者をいかに増やすかが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求職者向けのセミナー、就職相談会の実施は充実している ・ 多様な人材の活用に向けた求人情報の発信は、市ホームページで多様な働き方実践企業の公表に留まっている ・ 市内事業者が持つ高度な技能・技術に関するPRを実施するツールが「わこぐる」のみであり、情報発信による取引開拓や人材確保に繋がっていない
方向性6：和光産業を支える基盤の強化	<p>1、2-①のポイントである北インター東部地区は都市計画決定の準備の取り組みが進められた。この地域を活かした産業拠点の創出、事業展開は都市計画の進捗に左右され、長期に渡るため、具体的な取組が整理できない。</p> <p>3-②駅前、市庁舎周辺のにぎわい創出、3-③地域資源を生かしたにぎわい創出、4 市民が産業と触れ合える機会づくりは様々なイベント等が実施され、今後も継続した取組での効果が期待される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな産業拠点の整備については、北インター東部地区土地区画整理事業に時間を要するため具体化が困難である ・ 未利用事業所等の不動産情報の発信は「和光市空家対策計画」策定後に実施予定 ・ 鍋イベントを始めとする様々なイベントによる賑わいの創出は実施できている